

こすもスマイル

44号

令和2年6月発行

～看護部長のあいさつ～



新緑の輝く季節になりました。白が主流だったマスクに、おしゃれでカラフルなマスクが増えたことには目を引かれますが…、今年は世界中がコロナウイルス感染症の話題一色で、新緑がかすんでしまっているような気がします。当院では感染症拡大防止のため面会禁止が長期に及んでいます。患者さんおよびご家族の皆様には当院の運営にご理解、ご協力いただきお礼を申し上げます。

さて、令和2年度看護部には新人看護職員3名を含む7名（助産師5名と看護師2名）の職員が入職しました。今回は、生涯学習が求められる看護部の2つの教育活動について紹介します。平成22年4月から看護の質向上、医療安全の確保、早期離職防止の観点から、新人看護職員の卒後臨床研修が努力義務化されました。当院でも教育委員会が独自の教育プログラムを立案し、他職種にも協力してもらい研修を開催しています。外部の新人看護職員や、希望があれば既卒の院内新規採用者も受講できます。また、昨年度から「ニーズをとらえる力」「ケアする力」「協働する力」「意思決定を支える力」という4つの視点から、看護実践能力を段階的に表すJNAラダー小林市立病院版も導入しました。今後はこのラダーレベルに基づき継続教育を行い、自己評価や自己研鑽の目安として活用し、看護の質向上につなげたいと考えています。

すべてがコロナウイルスに振り回されている状況ですが、自分たちにできること、手洗いの徹底、規則正しい生活、体力を維持して自分自身が罹患しないこと、みんなが『One Team』（少し古いですが…）になる必要があるのではないかと思います。この『こすもスマイル』が配布される頃には、コロナウイルス感染症が少しでも収束に向かっていることを祈念します。

小林市立病院 看護部長 武田 愛

理 念

「安心、安全で信頼される病院を目指します」

【基本方針】

- ◎ 西諸の中核病院として、地域の医療機関と連携し、高度な医療を提供します
- ◎ 職員一丸となって、迅速な対応とチーム医療で、安全な医療を提供します
- ◎ 誠実かつ真摯（しんし）な姿勢で日々研鑽（けんさん）に努め、信頼される質の高い医療を提供します
- ◎ 自治体病院として、平等で心が通い合い、安心できる快適な療養環境を提供します
- ◎ 患者様と家族の満足を追求し、プライバシーの保護をはじめ患者様の権利を尊重します



診療部紹介

消化器外科・腫瘍外科

当院消化器外科・腫瘍外科は、令和2年5月現在、坪内事業管理者、徳田院長、島名、泊医師の計4人体制で診療を行っています。昨年度は大学病院や県立病院より計7名の研修医の先生にも交代でお手伝い頂きました。

年間300近い手術に加え、癌化学療法、内視鏡等の検査、外来診療と多忙な業務に追われる日々です。依然として内科医師不足のため、肺炎等の呼吸器疾患、心疾患、その他救急疾患にも追われ、大学や近隣の先生方のお力を借りながらなんとか維持できている状態です。

当科に限らず病院全体の常勤医の高齢化が進む中、この先当院が西諸医療圏の中核病院としての役割を担っていくためには、どうしても若い先生の力がが必要です。現在の診療レベルの維持向上を図りつつ、若い先生にも魅力ある環境づくりも求められています。

手術等のため救急患者の受け入れをお断りするなど、市民の皆さんや近隣の先生方にご迷惑をおかけすることも多々あり、大変申し訳なく思っております。現在の状況をご理解頂き、今後ご協力の程改めてよろしくお願い致します。



消化器外科・腫瘍外科科長 島名 昭彦

看護部紹介

4階東病棟

こんにちは。今回は4階東（地域包括ケア）病棟を紹介します。

国が地域包括ケアシステムの構築の実現を目指しています。それに伴い住み慣れた地域（自宅、施設）で過ごすための準備段階として当該病棟が平成29年に新設され3年がたとうとしています。

地域包括ケア病棟は、一般病棟での治療が終了し症状が安定した患者さんが自宅や施設へ退院するために退院支援をする病棟です。

スタッフは16名で日々退院へ向けて自立できるように内服の管理を始め、ストーマケア、糖尿病教育指導、透析導入直後の生活指導など自宅退院へ向けた支援を行っています。また病棟スタッフ、メディカルソーシャルワーカー、リハビリスタッフ、管理栄養士等が連携し退院へ向けたカンファレンスを行っています。看護師は受け持ち制で退院に向けて患者さんやご家族にお話を伺いながら患者さん・ご家族の意向に沿った退院支援、退院調整を行っています。

これからも笑顔で患者さん、ご家族に信頼される退院支援を行ってきます。



4階東病棟 主任看護師 佐土瀬さつき

新規採用者紹介

令和2年4月1日に辞令交付式が行われました。
11名の新規採用者が入職しましたので、ご紹介します！

整形外科医



うえみち かずし
氏名：上通 一師
趣味：ゴルフ

2020年4月よりお世話になっています。上通（かみとお）と書いて“うえみち”と読みます。患者さんはもちろん、一緒に働くスタッフも満足し笑顔になれるよう、がんばりたいと思っています。よろしくお願いいたします。



ふくなが もとき
氏名：福永 幹
趣味：寝る事

4月から当院に着任した整形外科医の福永幹です。患者さんを第一とした医療を提供できるように日々精進し、Face to Faceを胸に小林の医療に従事したいと思っております。

薬剤師



なか あおい
氏名：名嘉 葵
趣味：パン屋巡り

安心安全で高度な医療を提供する為、日々知識や技術を身につけていき、お薬を通して西諸の皆様へ地域貢献できるよう尽力いたします。よろしくお願いいたします。



のせ かなこ
氏名：野瀬 佳奈子
趣味：ショッピング

薬剤師としての自覚と責任を持ち、故郷である小林市の医療に少しでも貢献できるよう、自分にできることを精一杯頑張りたいと思います。

看護師



たけいち ことみ
氏名：竹市 琴未
趣味：愛犬の散歩
家族との旅行

小林での生活も日が浅く、まだ慣れない業務にも緊張の毎日ですが、優しい先輩方に指導していただきながら成長できるように努力していきます。患者さんに安全、安心に看護を提供できるよう、笑顔を忘れず頑張りたいと思います。



つるた ともみ
氏名：鶴田 友美
趣味：音楽をきいたり
演奏すること

この度、私の大好きな地元である小林市で看護師として入職することになりました。看護師としても社会人としてもまだまだ未熟ですが、患者さんへ安心で安全な医療、看護を提供できるよう日々努力してまいります。

助産師



にのかた ゆうこ
氏名：二方 夕子
趣味：まんがを読む

4月より3階病棟で勤務させていただくことになりました。
西諸地区の地域医療に貢献できるように日々努力いたします。よろしくお願ひ致します。



すわ みゆき
氏名：諏訪 美友喜
趣味：映画鑑賞
体を動かすこと

新人助産師として小林市立病院に就職しました。日々、勉強に励み笑顔で患者さんに寄り添いながら地域医療に貢献できるよう一生懸命頑張ります。よろしくお願ひいたします。



まんだあーそん たみー ぶりんせす みなみ
氏名：マンダアールソン タミー
プリンセス みなみ
趣味：スポーツ・旅行

4月より3階病棟で助産師として勤務させていただくことになりました。日々自己研鑽に努め、小林市立病院の職員として地域医療に貢献できるよう頑張ります。よろしくお願ひします。



まつした りさ
氏名：松下 璃紗
趣味：バレーボール
ドライブ

今年入職しました松下です。初めて働くということで、とても緊張していますが、産れ育った小林・西諸のために先輩方の力をお借りしながらがんばりたいと思います。よろしくおねがいします。



こだま かなの
氏名：児玉 佳奈乃
趣味：コンサート・舞台鑑賞
スキューバダイビング

社会人1年目でわからないことが多々ありますが、先輩方や同期の仲間から色々なことを吸収し学んでいこうと思います。よろしくお願ひ致します。

よろしくおねがいします！！



臨床工学室

当院の臨床工学室では、国家資格を持つ医療技術者が3名で組織されており、医療機器全般にわたって操作・保守点検・管理を行い、チーム医療の一員として患者さんへのより良い医療・安全な医療を提供できるよう夜間、休日にも対応できるように24時間の待機体制で勤務しています。



最近では、在宅医療の現場や新型コロナウイルスの感染拡大を防止する観点から、携帯電話やタブレットを用いた遠隔診療システム等に多く携わる傾向にあります。

また、当院では2009年の新病院移転より第1種高気圧酸素装置を設置し、計4000症例以上施行しています。

高気圧酸素療法は、一般に加圧カプセルなどの名称で広く知られ、疲労回復と創傷治癒に有効とされています。日本サッカー代表の香川選手がヨーロッパの自宅に加圧カプセルを持ち込むなどトップアスリートに愛用され、2012年ロンドンオリンピックからオリンピック会場内マルチサポートとして酸素カプセルの持ち込みが公認されるほどです。

当院で行っている高気圧酸素治療は、上記の加圧カプセルと異なるもので、急性一酸化炭素中毒、腸閉塞、重度の熱傷や重症感染症などの適応症例に対し、2気圧以上の環境下で純酸素を吸入する保健診療の治療です。

本年3月の更新に伴い、従来の酸素加圧に空気加圧の装備も加え、減圧症や空気塞栓症などの幅広い疾患に対応できるようになりました。

宮崎県初の治療装置であり、災害時医療や救急医療などの貢献が期待されています。



高気圧酸素装置

小林市立病院 臨床工学室 0984-23-8237（直通）

臨床工学室 村田 淳一

コメディカル紹介

放射線室

放射線室は5名の診療放射線技師が従事しており、多種多様の画像診断装置を駆使し、各診療科と密に連携を取りつつ、診断・治療に用いる画像の提供や、各種放射線機器等の保守管理および放射線被ばく防止に関する業務を行っています。

急性期病院として必要不可欠な検査機器を導入し、最新の検査技術で安全を尽くした医療の提供に努めており、患者さんに安心して検査を受けて頂けるように最小限の放射線で最大限の情報を提供できるように取り組んでいます。

また、近年進歩し続ける技術や多様化する専門性に対応した医療を提供できるように日々研鑽し、各種専門認定技師の育成にも力を入れています。

【認定資格】

- ・ 検診マンモグラフィー撮影認定技師 3名
- ・ X線CT 認定技師 2名
- ・ 超音波認定検査士 2名
- ・ 第一種放射線取扱主任者 1名



【高額医療機器の共同利用について】

地域の医療機関からの検査依頼に迅速に対応できる体制を整えています。

CT・MRI・マンモグラフィー・骨密度検査依頼は地域連携室までお問い合わせください。

放射線室室長 原田 教信

連絡先

小林市立病院 地域医療連携室

TEL 0984-23-8225 (直通)

FAX 0984-23-8226

Mail k_hosp4@city.kobayashi.lg.jp

スタッフのひとこと

4月1日付けで経営企画係から地域医療連携室に異動になりました、柿木と申します。

初めての業務を覚えるのに四苦八苦しておりますが、周囲の皆さんに助けていただけて少しずつ新しい環境に慣れてきたところです。

まだご迷惑をおかけすることも多々ありますが、地域医療に貢献できるよう頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

地域医療連携室 事務員 柿木 良子